

「地域団体型」部活動 試案

<条件>

- ・どうしても顧問を充てられなくなった部活動。
- ・子ども・保護者・地域ともに強い要望があるが部活動としては存在しない。

<具体的方策>

- ・地域・保護者が中心となり、新たに、 クラブ、 会等の団体を結成し、日常の活動は、その団体名の下で行う。
- ・活動場所及び活動費を保障する。
- ・地域指導者の補充
- ・近隣中学との合同練習の実施（地域団体として参加）
- ・ 部として、中体連に加盟する（中体連の大会への参加のため）

ただし、当該年度に実施が不可能な場合は、次年度以降の実施を視野に入れ、その間、「部活動支援型」を取り入れる。

教育委員会	学校	地域（保護者）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域団体申請・登録条件及び様式の策定 ・ 合同部活動の実施規定要綱の策定 ・ 活動費の予算化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域団体との調整 ・ 大会引率教員の選定 ・ 活動場所の割り振り ・ 近隣中学校との合同練習の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域団体の結成・申請登録 ・ 地域指導者として登録

<事例>

中学校 部は、4月の人事異動により、年度始めの段階で顧問不在となった4月1日の部活動会議において、その年の部活動顧問について話し合いがもたれたが部の顧問は引受け手がないまま会議は暗礁に乗り上げた。

学校側と 部保護者との話し合いで、新たに、 会を立ち上げ、保護者がその会の代表になることに決定し、教育委員会に地域団体としての申請及び登録を行った。学校も 部をそのまま存続し、中体連大会のための引率教員を充てることにした。また、 会より地域指導者派遣依頼を受けた教育委員会は、既に指導者登録している何人かを推薦した。その後、 会は A、B 氏の 2 名が会の諸条件と合致することから、2 名を地域指導者として教育委員会に「推薦書」を提出した。

会の代表及び A、B 氏と学校との話し合いで、A 氏は毎週月・水・金の 3 日間、B 氏は土日の練習及び練習試合、また、中体連主催大会の外部コーチとして 会の面倒を見ることになった。練習場所や部費は、他の部活動と同様の扱いで調整してもらい確保したが、活動はあくまでも 会として行った。また、火・木は基本的に休みとしたが、場合によって、 会の保護者が × × 中学校まで引率し、× × 中学校の指導者の下で合同練習を実施した。

中体連主催の大会には、 中学校 部として参加し、教員が引率した。また、外部コーチとして申請していた B 氏も同行した。